

視点

テクノロジーで配置基準の緩和と賃上げの両立を

「2040年に向けたサービス提供体制等のあり方」検討会の中間とりまとめを受け、介護保険部会で議論が始まった。とりまとめでは、中山間・人口減少地域ではサービスの維持確保のため配置基準の弾力化や市町村事業によるサービスの提供を、大都市部で需要の急増に対応するためICT、AI技術を活用した24時間365日対応可能な効率的・包括的なサービスの検討等を提言している。

また、介護人材確保の方策として、テクノロジーの導入、介護助手へのタスクシフト等による職場環境の改善と生産性向上等を掲げるが、中山間地域でも質維持のためテクノロジーの導入等の効率化が、大都市部でも高地価等で設備基準の弾力化が必要としており、テクノロジーの活用と地域の実情に応じた人員・設備基準の弾力化は、地域共通の課題と言える。

現在も、基準該当や離島等相当等自治体判断による基準の緩和や、見守り機器等のテクノロジーを導入した介護施設等について、安全体制の確保等の要件の下、配置基準の一部緩和は行われている。検討会や介護保険部会の議論ではテクノロジーの導入効果として、ケアの質向上や残業削減等が強調されているが、それだけに充てていては、固定的な人員配置と介護報酬の下で職員の賃上げ原資は出てこない。介護保険は国費や2号保険料等全国的な財政調整の仕組みであり一定の質確保は必要だが、規制改革推進会議や財政審の議論を真摯に受け止め、質のアウトカム評価を早期に確立し、それを満たせば大胆な配置基準の緩和を認め、必要職員数の削減と賃上げを両立させる抜本的な発想の転換が必要ではないか。

社会保険旬報

目次

No.2966 2025年6月11日

視点

テクノロジーで配置基準の緩和と賃上げの両立を 3

座標

四病協が令和8年度予算概算要求で要望
福岡厚労相が社会保障の対応を説明 4
日慢協が看護補助者の処遇改善求める
日病協がHPKIセカンドの有償化で要望 ... 5

論評

高額療養費上限額引き上げ案の衝撃と教訓
—「治療断念」と「家計破綻」を
防ぐ医療保険の再構築に向けて
安藤道人 6

動向

急性期入院医療の地域医療構想と
診療報酬の整合
—中医協・入院医療等分科会で議論 14

ジュネーヴからの便り②

スキップライン
中谷祐貴子 18

潮流

全国自治体病院開設者協議会が総会 19
高額療養費制度専門委員会が初会合 20
特定機能病院の承認要件を検討 22
財政審が診療報酬改定等で建議 24
建議で薬価収載のあり方見直し求める .. 25
年金法案は衆院修正で今国会成立へ 26

NEWS

日病の相澤孝夫会長を再選 ほか 28

療養の給付の取扱い 31

資料

急性期入院医療について（その1）、
高度急性期入院医療について（その1）
..... 32

雇用・労働の動き 41

編集室・ワードカプセル 42